

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ (1階)		
所在地	掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2276100399-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2276100399-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事内容の充実。調理(昼食・夕食)は通常2名の職員が交代で行なうことで、副食の完成度を高めることができています。管理栄養士1名、副食内容のチェックを行なっています。 ・職員のチームワーク。毎日利用者の状況を朝礼で共有して、介護支援を行なっています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成16年の開所以来10年目を迎え、重度化という局面で行事や外出の機会も少なくなりました。歌や踊りを見て楽しむものを中心になっていますが、自らの思い出と重ね合わせる利用者の表情は豊かです。離職率が低く人生経験豊かな職員が、戦後の貧しい時代を生き抜いた人同士がわかりあえる話題があり、自己の存在意識が高まっています。「精神的な安定がなければ人は眠れない。充分話を聴くこと。全員が薬に頼ることなく睡眠が取れている。」という管理者の言葉にも納得できます。大病した後に復帰した職員から「自分のモチベーションにつながっている」との話があり、ベテラン職員がいつまでも働ける環境があります。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月の職員会議で取組んでいます。 ・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に勤めています。	朝礼で唱和をしています。一人ひとりの生活のパターンを認め、穏やかな暮らしの支援に努めるよう毎月のミーティングで話し合いの機会をもち、サービスの向上につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の祭典を見に行きました。 ・日常的には地域との交流は行っていません。	ADLの低下と共に行動範囲も小さくなっていますが、隣の人形店の人形展示に同行したり、散歩の際は温室を覗いて挨拶をしあっています。1～2ヶ月ごとに歌や踊りの訪問があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・行っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・防災に関する訓練等の報告を行いました。 ・評価に関する取組みは行っていません。 ・介護内容に付いての意見交換。	参加メンバー数には課題がありますが2ヶ月に一度、定期開催が叶っています。内容は防災対策についての質疑に重点が置かれています。地元消防団との連携も深めていきたいと考えています。	運営推進会議の内容や、参加メンバーを検討し、例えば家族が参加したくなる開催になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行っています。サービス提供事業所連絡会出席。	運営推進会議への出席は叶っていませんが、年4回のサービス提供事業所連絡会において意見交換できています。種別話し合いもあり、他事業所の取り組みを聞く機会となっています。連絡を密に取り、都度相談に応じてもらえる関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束は行なっていません。	玄関の施錠および拘束は行っていません。外部研修に参加し、理解浸透や遵守に向けた伝達研修を実施しています。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援していますが、声かけについては充分ではないと感じており、ミーティングで振り返りの機会をもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はありません。 ・虐待防止に関する研修会に出席しました。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に入居契約書・重要事項説明書の内容について家族に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・特に聞く機会を設けていません。 ・運営推進会議で意見要望等を聞き、運営に反映させるようにしています。	運営推進会議への出席もありますが、電話で状態報告を行なうやりとりが主となっています。車いす生活が多くなった利用者、リハビリに力を入れてほしいとの要望があり取り組みに活かしています。「お任せします」という傾向があり、気軽に言ってもらえる聞き出し方が必要です。	利用者も重度化して行事開催も少なくなっていますが近況報告に写真が添えられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の時に意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月に一度1、2階合同で職員会議を開催しています。職員間でひやりはつとを共有するようになり、検討が必要な場合は都度集まっています。会議では意見があがりやすいように個々に問いかけをして率直な意見交換の場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新規採用の職員には施設長、主任が出来る限り付いて一定期間教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所連絡会に年4回出席して意見交換等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・近況をこまめに電話で連絡し、面会時には近況報告を必ず行うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・課題分析を行って、出来ること、出来ないことを基に必要な介護、支援内容を把握してサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられることも多く、共に感心したり喜んだりすることで、気持ちを通じ合わせるように心掛けている。 ・生活を共にしながら支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるように、お願いをしています。	植物の好きな人は居室に鉢植えを置いて水遣りを行っています。空家になった自宅の整理に通う人もいます。ゲートボールの友人たちも高齢化し、家族や親戚の訪問に限られてきています。縫物が得意だった人も一人では困難になりましたが職員の工夫で継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士を中心に、和が保てるように工夫しています。 ・利用者間のトラブルを未然に防ぐように常に配慮しています。 ・状況によってはユニット間で移動して対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者や家族から相談があれば、積極的に相談に乗っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人その人なりの生き方に合わせた介護、支援を心掛けています。	人生経験、在籍年数ともに豊富な職員であることから、利用者の想いを引き出す会話が自然に交わされています。繰り返される話の場面で再現できるような活動をすることで、断片的ではあるものの発語があり、想いが共有され、精神的な安定につながっています。	利用者はもちろんのこと、家族意見において専門家の視点や事業所方針として職員本位の発言はないか、見直されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人及び家族から、今までの生活歴を聞き把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護を行うように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画案を作成した段階で本人、家族と話し合いをしています。面談出来ない家族には計画を郵送して、内容を確認して意見、要望等があれば連絡していただき、意見・要望を取入れて再度計画を作成して、了解を取るようにしています。	状態変化がなければ年2回の見直しを行っています。アセスメントはセンター方式を一部参考にし、担当者会議を通して職員意見を集約しています。サービス内容にはどのような声かけで安心が得られるのかが具体的に記載されており、ケアが標準化できるプランとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・6ヶ月に1回介護計画の実施状況をモニタリング及び課題分析を行って、介護計画作成に反映させるようにしています。 ・状況が変化すればそのつど介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの慰問を活用して娯楽内容の充実を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医との連絡を密にして定期受診、不定期の受診等状況に応じて、家族の協力も得て行っています。	基本的に受診は家族にお願いしていますが、介護車両が必要な場合は職員が同行しています。家族受診では、適性な診察に繋がるようバイタル表や状態変化の様子を書面で手渡します。内服薬は必ず飲み込むまでを確認するよう徹底しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・行っていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医及び医療連携室と連携を密にして行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状況に応じて家族に説明して、医療機関の利用や他老人施設等への移行について支援を行っています。	看取りは行っていません。契約時に家族に説明し同意を得ています。家族としても医療機関を希望する人が多く、重篤な状況になった場合は、医療の指示を仰ぎ、救急搬送を行っています。状態の変化に応じて医療機関や他の施設への転居を視野に入れ話し合うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議等で確認しています。 ・新規採用職員には救急講習に参加して、応急手当の知識を習得するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地元消防団及び南遠工芸と緊急時の支援体制が取れるように、防災訓練に参加して災害時に備えるようにしています。	消防署員立ち会いのもと訓練を行いました。津波を想定し、2階への避難を実践して職員一人での搬送の難しさを学び、隣接の店舗従業員との合同訓練も考えています。食糧備蓄を1週間分として見直し、発電機、緊急時の浄水器、防災頭巾、ライフジャケットの準備もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の尊厳を大切に、言葉掛けに充分配慮しています。</li> <li>排泄の介助時は人目に触れないようにトイレや部屋の戸を閉めて行うようになっています。</li> <li>同姓介護を希望する利用者には配慮しています。</li> </ul>	<p>本人が心地よいと感じるにはどのように呼んでほしいか家族から情報を聞き、親しみを込めた呼び方に反応が良い場合は「ちゃん、づけの人」もいます。親しさの中にも目上の人への尊敬の念が込められるよう接遇研修への参加も計画しています。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定を尊重した介護を行っています。筆談・身振り手振り等を使って利用者の意見、希望等を聞き自己決定できるように支援しています。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の考えや希望を受入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行っています。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>散髪は2ヶ月1回実施し、出来るだけ本人の希望を取り入れる様にしています。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者と職員が楽しく食事を食べています。</li> </ul>	<p>業者から食材配達があり、一階厨房で調理専任職員が作っています。重度化により外食に出かける機会もなくなりましたが、毎月15日を「寿司の日」と決め、好みの具材や刻みにも対応してもらえる寿司店に出前を頼んでいます。焼き芋やたい焼きはリクエストの多いおやつです。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養・水分補給については出来ています。</li> <li>食事摂取量は毎食記録しています。水分補給の記録は必要に応じて行っています。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食後口腔ケアを行っています。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立出来ていない人は、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行い、必要に応じて必要な介護を行っています。日中は基本的にはトイレでの排泄を行うようにしています。	衣類の着脱や後始末が必要な利用者が増えましたが、パターンを把握して失敗のない支援を心がけ、排泄用品を減らせるよう努力しています。転倒が心配される利用者には夜間ポータブルトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘のある人は医師から便秘薬を処方してもらい、排便状況を把握しながら服薬を行っています。 ・予防として野菜等の食物繊維を取り入れた献立を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は2日に1回実施しています。排泄で汚した人は、状況に応じてそのつどシャワー浴を行っています。	入浴時間を午前中としています。職員二人がかりでの介助が必要な人や、清潔保持のために毎日入浴する人もいます。ゆずや菖蒲を使って変わり湯を楽しみ、脱衣所には冬季の皮膚トラブル防止のため「やさしく洗ってね」とのメッセージが添えられていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心掛け、活力ある生活を送れるように支援しています。 ・ゲーム、裁縫、塗り絵、ドリル等の活動も取り入れて、生活内容の充実を図るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・散歩、日光浴・ドライブを行なっています。 ・外出は家族の協力をお願いしています。	天気の良い日は必ず外気浴を行っています。隣の人形店まで雛人形を見に行ったりもします。自宅への外泊や大勢で外出することが減り、個別対応が増えていますが、短時間の外出は叶っています。海岸までドライブに出かけることもあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は自分で金銭管理の出来る状態の人はいませんので、買い物は職員が付添いお金の支払は職員が行なっています。支払金は施設で立替、毎月の請求書で請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けれる能力の人は現在はいません。家族からかかってきた電話に、出れる利用者は電話に出てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度、湿度、採光管理に気をつけ、季節の花等を飾って季節感を感じることが出来るようにしています。	輪投げの設置、体操メニューの掲示で屋内でも体を動かす働きかけがあることが視えます。掲示写真には職員と笑顔で踊る利用者の表情がありました。感染症予防のため温度や湿度への配慮を怠らず、換気や清掃は時間を決めて行っています。	車椅子の人が増えスペース確保が必要になっているため、工夫を期待しています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・面談室・多目的室を使ったりして居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っています。	日当たりのよい場所に鉢植えを置いてお世話する人、読書好きな人は枕元に書籍棚、好きな唱歌を書いて貼ってある人、鏡台を持参した人…その人らしさが感じられる居室作りがありました。居室はすべて南向きで暖かくクローゼット、ベッド、カーテンが備え付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・少しでも出来る事は職員と一緒に行うようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ(2階)		
所在地	掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2276100399-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2276100399-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事内容の充実。調理(昼食・夕食)は通常2名の職員が交代で行なうことで、副食の完成度を高めることができています。管理栄養士1名、副食内容のチェックを行なっています。  
・職員のチームワーク。毎日利用者の状況を朝礼で共有して、介護支援を行なっています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年の開所以来10年目を迎え、重度化という局面で華々しい行事や外出の機会も少なくなりました。歌や踊りを見て楽しむものが中心になっていますが、自らの思い出と重ね合わせる利用者の表情は豊かです。離職率が低く人生経験豊かな職員が多い職場で、戦後の貧しい時代を生き抜いた人同士がわかりあえる話題があり、自己の存在意識が高まっています。「精神的な安定がなければ人は眠れない。充分話を聴くこと。全員が薬に頼ることなく睡眠が取れている。」という管理者の言葉に納得できます。大病した後に復帰した職員から「自分のモチベーションにつながっている」との話があり、ベテラン職員が「人財」となって働いている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の職員会議で取組んでいます。</li> <li>・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に勤めています。</li> </ul>	朝礼で唱和をしています。一人ひとりの生活のパターンを認め、穏やかな暮らしの支援に努めるよう毎月のミーティングで話し合いの機会をもち、サービスの向上につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の祭典を見に行きました。</li> <li>・日常的には地域との交流は行っていません。</li> </ul>	ADLの低下と共に行動範囲も狭まってきましたが、隣の人形店の人形展示に同行したり、散歩の際は温室を覗いて挨拶をしあっています。1～2ヶ月ごとに歌や踊りの訪問があります。事業所敷地内で伝統行事として消防団による出初め式を行った経緯もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行っていません。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する訓練等の報告を行いました。</li> <li>・評価に関する取組みは行っていません。</li> <li>・介護内容に付いての意見交換。</li> </ul>	参加メンバーに課題がありますが2ヶ月に一度、定期開催が叶っています。内容は防災対策についての質疑に重点が置かれています。地元消防団との連携も深めていきたいと考えています。	運営推進会議の内容や、参加メンバーを検討し、内容が充実されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行っています。サービス提供事業所連絡会出席。	運営推進会議への出席は叶っていませんが、年4回のサービス提供事業所連絡会において意見交換できています。種別話し合いもあり、他事業所の取り組みを聞く機会となっています。連絡を密に取り、都度相談に応じてもらえる関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拘束は行なっていません。</li> </ul>	玄関の施錠および拘束は行っていません。外部研修に参加し、理解浸透や遵守に向けた伝達研修を実施しています。安全を確保しつつ自由な暮らしを支援していますが、声かけについては充分ではないと感じており、ミーティングで振り返りの機会をもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待はありません。</li> <li>・虐待防止に関する研修会に出席しました。</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に入居契約書・重要事項説明書の内容について家族に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・特に聞く機会を設けていません。 ・運営推進会議で意見要望等を聞き、運営に反映させるようにしています。	運営推進会議への出席もありますが、状態報告をこまめに行うため電話での対話が主になっています。車いす生活が多くなった利用者には、リハビリに力をいれてほしいとの要望があり取り組みに活かしています。お任せしますという傾向があり、気軽に言える聞き出し方が必要です。	利用者も重度化して行事開催も少なくなっていますが近況報告に写真が添えられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の時に意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月に一度1・2階職員合同で職員会議を開催していますが、職員間でひやりはつとを共有するようになり、検討が必要な場合は都度集まっています。会議では意見があがりやすいように個々に問いかけをして率直な意見交換の場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新規採用の職員には施設長、主任が出来る限り付いて一定期間教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所連絡会に年4回出席して意見交換等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・近況をこまめに電話で連絡し、面会時には近況報告を必ず行うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・課題分析を行って、出来ること、出来ないことを基に必要な介護、支援内容を把握してサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられることも多く、共に感心したり喜んだりすることで、気持ちを通じ合わせるように心掛けている。 ・生活を共にしながら支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるように、お願いをしています。	植物の好きな人は居室に鉢植えを置いてお世話を続けています。空家になった自宅の整理に通う人もいます。ゲートボールの友人たちも高齢化し、家族や親戚の訪問に限られてきています。縫物が得意だった人も一人では困難になりましたが職員の工夫で継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士を中心に、和が保てるように工夫しています。 ・利用者間のトラブルを未然に防ぐように常に配慮しています。 ・状況によってはユニット間で移動して対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者や家族から相談があれば、積極的に相談に乗っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人その人なりの生き方に合わせた介護、支援を心掛けています。	人生経験、在籍年数ともに豊富な職員であることから、利用者の想いを引き出す会話が自然に交わされています。繰り返される話の場面で再現できるような活動をすることで、断片的ではあるものの発語があり、想いが共有され、精神的な安定につながっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人及び家族から、今までの生活歴を聞き把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護を行うように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画案を作成した段階で本人、家族と話し合いをしています。面談出来ない家族には計画を郵送して、内容を確認して意見、要望等があれば連絡していただき、意見・要望を取入れて再度計画を作成して、了解を取るようにしています。	状態変化がなければ年2回の見直しを行っています。アセスメントはセンター方式を一部参考にし、担当者会議を通して職員意見を集約しています。サービス内容にはどのような声かけを行えば安心が得られるのかが具体的に記載されており、ケアが標準化できるプランとなっていることを確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・6ヶ月に1回介護計画の実施状況をモニタリング及び課題分析を行って、介護計画作成に反映させるようにしています。 ・状況が変化すればそのつど介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの慰問を活用して娯楽内容の充実を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医との連絡を密にして定期受診、不定期の受診等状況に応じて、家族の協力も得て行っています。	基本的に受診は家族にお願いしていますが、介護車両が必要な場合は職員が同行しています。家族受診の際は正確な診察のためバイタル表や状態変化の様子を書面で手渡します。内服薬は必ず飲み込むまでを確認するよう徹底しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・行っていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医及び医療連携室と連携を密にして行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状況に応じて家族に説明して、医療機関の利用や他老人施設等への移行について支援を行っています。	看取りは行っていません。契約時に家族に説明し同意を得ています。家族としても医療機関を希望する人が多く、重篤な状況になった場合は、医療の指示を仰ぎ、救急搬送を行っています。状態の変化に応じて医療機関や他の施設への転居を視野に入れ話し合うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議等で確認しています。 ・新規採用職員には救急講習に参加して、応急手当の知識を習得するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地元消防団及び南遠工芸と緊急時の支援体制が取れるように、防災訓練に参加して災害時に備えるようにしています。	消防署員立ち会いのもと訓練を行いました。津波を想定し、2階への避難を実践して職員一人での搬送の難しさを学び、隣接の店舗従業員との合同訓練も考えています。食糧備蓄を1週間分として見直し、発電機、緊急時の浄水器、防災頭巾、ライフジャケットの準備もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の尊厳を大切に、言葉掛けに充分配慮しています。</li> <li>排泄の介助時は人目に触れないようにトイレや部屋の戸を閉めて行うようにしています。</li> <li>同姓介護を希望する利用者には配慮しています。</li> </ul>	<p>本人が心地よいと感じるにはどのように呼んでほしいか家族から情報を聞き、親しみを込めた呼び方に反応が良い場合は「ちゃん、づけの人」もいます。馴染みの中にも目上の人への尊敬の念が込められるよう接遇研修への参加も計画しています。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定を尊重した介護を行っています。筆談・身振り手振り等を使って利用者の意見、希望等を聞き自己決定できるように支援しています。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の考えや希望を受入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行っています。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>散髪は2ヶ月1回実施し、出来るだけ本人の希望を取り入れる様にしています。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員と一緒に食べています。</li> <li>準備片付けは職員が行ないますが、下膳、トレーを拭く等の作業が出来る人には、行ってもらう様にしています。</li> </ul>	<p>外部業者から良材を配達してもらい一回厨房で調理専任職員が作っています。重度化により外食に出かける機会もなくなりましたが、毎月15日を「寿司の日」と決め、好みの具材や刻みにも対応してもらえる寿司店に出前を頼んでいます。焼き芋やたい焼きはリクエストの多いおやつです。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養・水分補給については出来ています。</li> <li>食事摂取量は毎食記録しています。水分補給の記録は必要に応じて行っています。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食後口腔ケアを行っています。</li> </ul>		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立出来ていない人は、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行い、必要に応じて必要な介護を行っています。日中は基本的にはトイレでの排泄を行うようにしています。	衣類の着脱や後始末が必要な利用者が増えましたが、パターンを把握して失敗のない支援を心がけ、排泄用品を減らせるよう努力しています。転倒が心配される利用者には夜間ポータブルトイレを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘のある人は医師から便秘薬を処方してもらい、排便状況を把握しながら服薬を行っています。 ・予防として野菜等の食物繊維を取り入れた献立を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は2日に1回実施しています。排泄で汚した人は、状況に応じてそのつどシャワー浴を行っています。	午後は慣になつて休養する時間が増えているため、午前中に入浴としています。職員二人がかりでの介助が必要な人や、清潔保持のために毎日入浴する人もいます。ゆずや菖蒲を使って変り湯を楽しみ、脱衣所には冬季の皮膚トラブル防止のため「やさしく洗ってね」とのメッセージが添えられていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心掛け、活力ある生活を送れるように支援しています。 ・ゲーム、裁縫、塗り絵、ドリル等の活動も取り入れて、生活内容の充実を図るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・散歩、日光浴・ドライブを行なっています。 ・外出は家族の協力をお願いしています。	天気の良い日は必ず外気浴を行っています。隣の人形店まで雛人形を見に行ったりもします。自宅への外泊や大勢で外出することが減り、個別対応が増えていますが、短時間の外出は叶っています。海岸までドライブに出かけることもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は自分で金銭管理の出来る状態の人はいませんので、買い物は職員が付添いお金の支払は職員が行なっています。支払金は施設で立替、毎月の請求書で請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けれる能力の人は現在はいません。家族からかかってきた電話に、出れる利用者は電話に出てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度、湿度、採光管理に気をつけ、季節の花等を飾って季節感を感じることが出来るようにしています。	輪投げの設置、体探メニューの掲示で屋内でも体を動かす働きかけが覗われます。ボランティア訪問時の写真には職員と笑顔で踊る利用者の表情がありました。車椅子の人が増えスペース確保が必要になってきました。感染症予防のため温度や湿度への配慮を怠らず、換気や清掃は時間を決めて行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・面談室・多目的室を使ったりして居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っています。	日当たりのよい場所に鉢植えを置いてお世話する人、読書好きな人は枕元に書籍棚、好きな唱歌を書いて貼ってある人、鏡台を持参した人…その人らしさが感じられる居室作りがされています。居室はすべて南向きで暖かくクローゼット、ベッド、カーテンが備え付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・少しでも出来る事は職員と一緒に行うようにしています。		